

文学部

文学部生のリアルな学生生活

Vol.44

文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。

与汉语相遇

— 中国語学習で得た挑戦することの面白さ —

文学部人文社会科学科中国言語文化専攻2年
埼玉県立伊奈学園総合高等学校出身

よしだ まがと
吉田 真翔



私の母校では語学学習に力を入れており、中国語も履修することができる。どの語学を学ぼうか迷う中、「どのような言語なのだろう」と軽い気持ちで中国語を履修し始めた。しかし、学修を進めていく中で、日本語にはない音楽のような中国語の発音の響きや中国文化に興味を抱き始めた。

高校2年生の時には訪中団に参加し、実際に上海・南京・蘇州などを巡る機会を得て、世界遺産や博物館の見学、中国舞踊・中国茶といった中国文化の体験を行った。雄大な蘇州の茶畑、美しい外灘の夜景、活気あふれる南京路の様子など、美しい光景が今でも脳裏に焼き付いている。博物館や世界遺産の見学・文化体験では、中国4000年の歴史の雄大さを改めて実感することができた。また、現地の人々との交流を通し、自分の中国語の発音の拙さを実感し、母国語ではない言語でコミュニケーションすることの難しさを知った。

この経験を通じ、中国語・中国文化に

対する興味関心はますます増した。それだけでなく、中国語能力をさらに向上させ、現地の人々と円滑にコミュニケーションを取れるようになりたいと考えるようになり、中国語と中国文化を学べる中央大学への入学を決めた。

入学後の最初の目標は、「発音能力をさ

らに向上させ、スピーチコンテストに出場して賞を受賞すること」「中国語検定2級に合格すること」とした。

授業等で中国語の学びを深める中、1年生の秋にスピーチコンテストに出場した。スピーチ原稿の作成では、中国語の表現の仕方に苦戦した。発音練習では中国語の発音の難しさを改めて実感するも、先生が丁寧に指導してくださったおかげで発音のレベルを向上させることができた。結果的に3位以内に入ることができなかったが、賞を受賞することができてうれしかった。コンテストでは発音がとても上手な方のスピーチを聞くことができ、中国語学修に対するモチベーションのアップにもつながった。

検定試験については、高校時代に中国語検定3級を取得していたことから、今度は中国語検定2級に合格できるよう努力した。2級は3級より難易度が一気上がり、慣用句や四字熟語の問題も出題されるため、



活気あふれる南京路



美しい外灘の夜景

それらに対応できるよう語彙を増やすこととリスニング問題の対策に苦勞した。語彙を増やすために、参考書の問題を解くだけでなく、小さい頃から好きだったディズニー映画を中国語字幕・中国語音声で視聴した。ほかにも、中国の映画・ドラマをたくさん見ることで、楽しみながら中国語の耳を鍛えた。

日々これらの対策を続けた結果、無事2級に合格することができた。この検定対策を通して、語彙力とリスニング力を向上させることはもちろん、中国映画の面白さも知ることができた。現在では、好きな映画やドラマを中国語で視聴するのが趣味の一つとなっている。

高校時代にもスピーチコンテストや中国語検定に何度か挑戦したが、良い結果を得ることはできなかった。高校時代に努力したものの叶わなかった夢が叶い、これまでの努力が報われた気がして非常にうれしかった。また、コンテスト参加や検定の学修をおとして、挑戦することの面白さを知れてよかった。

入学当初に上げた目標は、こうして1年生の間に無事達成することができた。今後の大学生活では、「漢語水平考試（以下、HSK）の合格」「中国語の発音能力をさらに向上させ、スピーチコンテストで3位以内に入ること」を新たな目標とし、その達成に向けて勉強に励んでいる。HSKは世界中で公的証明として活用できる中国政府認



スピーチコンテスト受賞

定の中国語能力試験で、より実践的な内容となっている。中国語検定とは違った知識も求められるため、さらなる学修が必要である。

また、新型コロナウイルスの流行が終息したら、再び中国へ足を運びたいと考えている。4年前に訪中した際にさまざまな中国文化を実際に体験したように、現地の人々とコミュニケーションを積極的に取りながら、みずからの経験を通じて中国に対する見聞を深めたい。

そして将来的には、中国語学修で得た知識や中国語の能力を生かすことができる仕事に就くことを望んでいる。そのような仕事に就くためには、現在の中国語能力ではまだ不十分である。今後さまざまなチャレンジをし、中国語のレベルを向上させていく中で、大学生活を有意義なものとしていきたい。

文学部だより

ご挨拶

文学部事務室 きみしま ともか 君島 朋華

ご父母の皆さま、はじめまして。2022年7月1日付で文学部事務室に配属となりました、新入職員の君島朋華と申します。

私は附属横浜高校・中央大学法学部と合わせて7年間をこの「中央」で過ごしました。大学4年生の就活時には、学部事務室の職員やキャリアセンターのご支援を賜り、中央大学のサポートの手厚さを実感いたしました。

現在は、文学部の入試や広報に関する業務を担当しております。職員として、中央大学文学部の魅力を余すことなく発信できるよう努力してまいります。

さて、今年度は、ほとんどの授業が対面開講となりました。3年生以下にとっては初めての対面授業です。キャンパスにはあふれかえるほどの学生が、感染対策を十分に取って、明るくにぎやかに過ごしている様子が見受けられます。

大学本来の姿を取り戻したような光景に大変うれしく感じております。

いまだ気の抜けない日々は続きますが、限られた状況の中でどのように行動するかが大切です。文学部では、少人数クラスに担任制、共同研究室や他専攻科目の履修（ゴシック科目）など、ご子女の学生生活をきめ細やかにサポートする環境を整えております。ご子女におかれましては、是非、文学部の制度や研究室、教職員を頼りながら、さまざまなことに挑戦していただけますと幸いです。

先の見えないこのご時世、前途への不安と期待が入り混じっていることかと存じます。ご父母、ご子女の皆さまに寄り添い、ご子女の学生生活が充実したものとなるよう精一杯サポートさせていただきます。お困りごとがありましたら、いつでも文学部事務室までお問い合わせください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

